

北九州市立八幡母子寮 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月9日（水） 13：00～16：30
- 2 場 所 小倉北区役所（西棟）7階 特別会議室
- 3 出席者 （検討会構成員） 阿南構成員、河崎構成員、大塚構成員、
田中構成員、田村構成員、小林構成員
（事務局）子ども家庭局子育て支援課長、家庭支援係長
- 4 会議内容
 - 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
 - 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
 - 構成員の互選により、座長を選出
 - 応募団体（社会福祉法人八幡民生事業協会）より提案概要に関してプレゼンテーション及び質疑応答を実施

【以下、質疑応答内容】

- （構成員） なぜ、トリプルPを特別に提案されたのか。
- （応募団体） 親子関係形成支援は、市町村が実施している事業と聞いているが、ペアレントトレーニングは現在、子ども総合センターにお願いしているため、
入所者と一番身近に接する支援員が、この専門的なプログラムを学び、今後実施できればと考えている。私たちは、様々な研修などを受け、資の高い支援を心掛けているが、もう少し専門的で、感覚的などではなく、きちんと根拠に基づいた、
専門的な支援を行えればという観点から、こういったプログラムを提案することとした。
- （構成員） 提案から、防災訓練など、災害時の対応はとてもよくしているが、地域との連携はどうか。
- （応募団体） 警察や区役所と連携は取っている。現在、大きな災害が起こっている時代であるため、地域の自治区会、まちづくり協議会などと連携して災害時の役割分担などをできればと考えている。

- (構成員) 入所している子どもの学校との連携はどうか。
- (応募団体) 学校とは、年に1回、話し合いの場を設けている。具体的には、学校での児童の様子を伺ったり、施設での児童の様子を伝えたりし、その児童にどのような支援が必要か話し合っている。話し合いの場としては年に1回場を設けてはいるが、日ごろから連絡は毎日のように取っている。
- (構成員) 学校に通っている子どもの登下校中は、特に気を遣っているのか。
- (応募団体) 特に、DV等の被害のある家庭の児童は送迎を行ったりもしている。
- (構成員) 退寮した場合、児童は転校することになるのか。
- (応募団体) ほとんどの世帯が、退寮しても不安を残していたり、子どもの転校のことを気にかけて、寮の近くに引っ越す場合が多い。
- (構成員) 障がいのある子どもへの支援を行っているとはあるが、件数としては多いのか。
- (応募団体) 現在最も多いのは、発達障害。施設のみで対応が難しい場合は、支援学級を勧めたり、放課後デイサービスなどを勧めたりするなど、その子に合った支援を行っている。
- (構成員) 待機児童の預かり保育もしているとのことだが、保育所に入れられない場合は何か月も施設内の保育室で預かるのか。
- (応募団体) 施設には保育士もおり、預かっている。施設内で預かっている期間があり、慣らし保育のような形を取ることができ、安心して保育所に入れることができたという声も上がっている。
- (構成員) 入所世帯が減少しているとのことだが、広報活動など何か改善策はあるのか。また、多子世帯向けの居室の整備の実現可能性はあるのか。また、セキュリティ対策について、機械のみではなく、職員等の防犯訓練等を行っているのか。
- (応募団体) 施設の特性上、公に広報することが難しいが、行政を通して、なるべく多くの必要な世帯に情報が行き渡るよう努めている。当施設は、DV被害者しか入れないといったような誤解が行政でも生まれているようであるため、他にも生活困窮であったり、様々な問題を抱えた方が入所できることを周知したい。また、入所までには至らない場合でも、相談は多くなっている。その相談の中の声として、「施設」に入所することに抵抗がある方が多くいるという現状がある。次に、多子世帯向けの居室について、子どもが9人いる世帯が相談に来たケースが最近あった。子育て支援課と協議しながら、検討していきたい。

最後に、防犯面に関して、警察との連携はもちろん、マニュアルや、さすまたもある。

一度、警察に協力をお願いし、抜き打ちで防犯訓練を行ったことがある。

- 構成員は、提案概要のプレゼンテーション及び質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換

【以下、意見内容】

- ・ 問い合わせがあるが、入所に繋がらないといった話があったため、改善策がもう少しあるのではないか。
 - ・ トリプルPや危機管理など、様々な点で力を入れており、評価できる。
 - ・ 新しい提案をし、前向きな姿勢を感じた。
- 事務局は合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議
 - ・ 入所から退所後のフォローまで手厚く行っていることは評価できる。
 - ・ 既存の事業継続とともにノウハウを活かした高機能化・多機能化を目指している。
 - ・ 地域貢献など具体的な提案、取り組みが実施されており、安定的な運営が期待できる。
 - ・ トリプルPの養成講座を受講し、ファシリテーターの資格取得をさせるよう努力している。
 - ・ 各世帯のより良い生活のために努力して下さっている姿勢を感じた。

- 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。